

祝 世界遺産決定!!

平成27年7月5日

「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録されました。これで、日本においては一昨年の「富士山」、昨年の「富岡製糸場と絹産業遺産群」に続いて3年連続で、日本の世界遺産は文化15件、自然4件の計19件となりました。近年、暗いニュースが多い中、とても明るいニュースです。

今回、世界文化遺産となった産業革命遺産は、19世紀半ばから20世紀初頭にかけて日本の近代化を牽引した製鉄・鉄鋼やそれらを支えた石炭産業、つまり重工業の施設で構成されています。

さて、今回のこのコラムをなぜ、取り上げたかといいますと、この「明治日本の産業革命遺産」は、8県23施設に及ぶもので、九州・山口を中心に、また東北にもその対象となった施設があります。自治労連を知っている方ならもうお気づきでしょうが、この構成は自治労連そっくりですね。なにか、縁を感じます。

日本の近代化に寄与したこの世界遺産とともに、われわれ自治労連も、先輩諸氏たちが尽力して築かれてきた組合の歴史と「自由にして民主的な労働運動」という自治労連の基本理念を堅持しながら、さらなる発展の一步を踏み出して存在していかなければなりません。住みやすく働きやすい地域に、地域住民から理解される労働組合を目指します。

ちなみに、この「明治日本の産業革命遺産」は、8県23施設で構成されると述べましたが、この中にはわれわれ自治労連の構成組織である、熊本県荒尾市の「万田坑」も含まれています。



紹介しますと、「万田坑」は、わが国最大規模の炭鉱施設であり、明治・大正期にかけて日本の近代化に大きな役割を果たしました。第二竖坑櫓、巻揚機室を始め、施設やそれに伴う設備関係が良好に残っており、当時の優れた炭鉱技術を知ることができる施設となっています。

この万田坑は「三池炭山」の主力坑の一つであり、近代労働争議として代表的な「総資本対総労働」の対決である「三池闘争」の場所でもあり、ストライキを好む「実力行使」の組合から分裂し、「話し合い」を主とした民主的な労働組合が発足した地でもあります。

この機会にぜひ、文化・労働共に歴史のある「万田坑」へ見学にお越しください。

そう、私の出身がここなのです。

